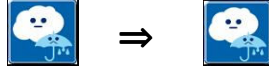


最近の景況について

1 県内景気の動向（平成21年12月7日公表）

○景況天気図 前月（小雨） 今月（小雨）



概況

乗用車新車登録台数は、3か月連続で前年水準を上回っている。また、公共工事請負金額は、2か月ぶりに前年水準を上回った。

鉱工業生産指数の原指数は、19か月連続で前年水準を下回っているが、季節調整指数は、2か月ぶりに前月水準を上回った。

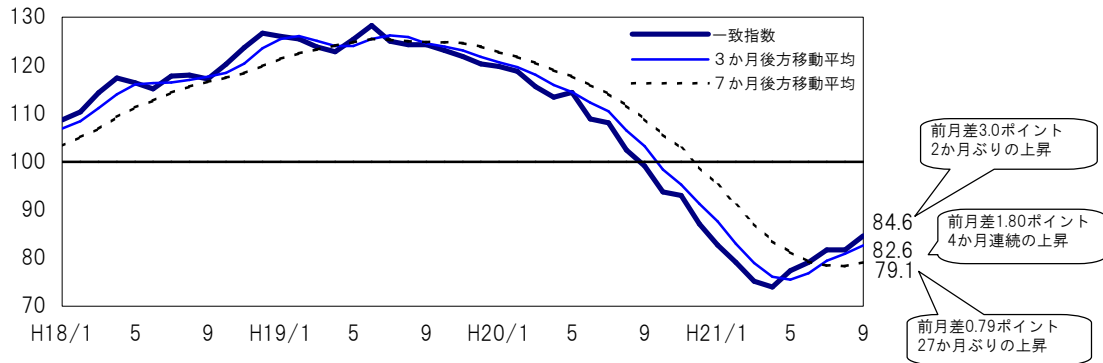
一方、大型小売店販売額は14か月連続、新設住宅着工戸数は9か月連続で、それぞれ前年水準を下回っている。

また、有効求人倍率は、依然として低い水準となっている。

このように、県内景気は、下げ止まりの動きもみられるものの、厳しい状況にある。

2 平成21年9月分の景気動向指数（C I一致指数）（平成21年12月7日公表）

○指数の推移（平成17年=100）



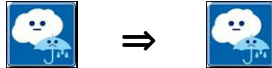
○基調判断

景気動向指数（C I一致指数）は、「下げ止まり」を示している。

（基調は、月々の値をならした、3か月後方移動平均や7か月後方移動平均を中心に判断している。7か月後方移動平均が上昇に転じたが、上昇幅が「局面変化」の基準に達していないため、前月の「下げ止まり」を踏襲。）

（参考）国内景気の動向（内閣府「月例経済報告」：平成21年11月20日公表）

○景況天気図 前月（小雨） 今月（小雨）



※天気図は本県で判断したものです。

○我が国経済の基調判断

景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

- ・輸出は、アジア向けを中心に、増加している。生産は、持ち直している。
- ・企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。設備投資は、下げ止まりつつある。
- ・企業の業況判断は、依然として厳しい状況にあるものの、全体として持ち直しの動きが続いている。ただし、中小企業ではそのテンポは遅い。
- ・雇用情勢は、依然として厳しい。
- ・個人消費は、持ち直しの動きが続いている。
- ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

先行きについては、当面、厳しい雇用情勢が続くとみられるものの、海外経済の改善などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、雇用情勢の一層の悪化や海外景気の下振れ懸念、デフレや金融資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

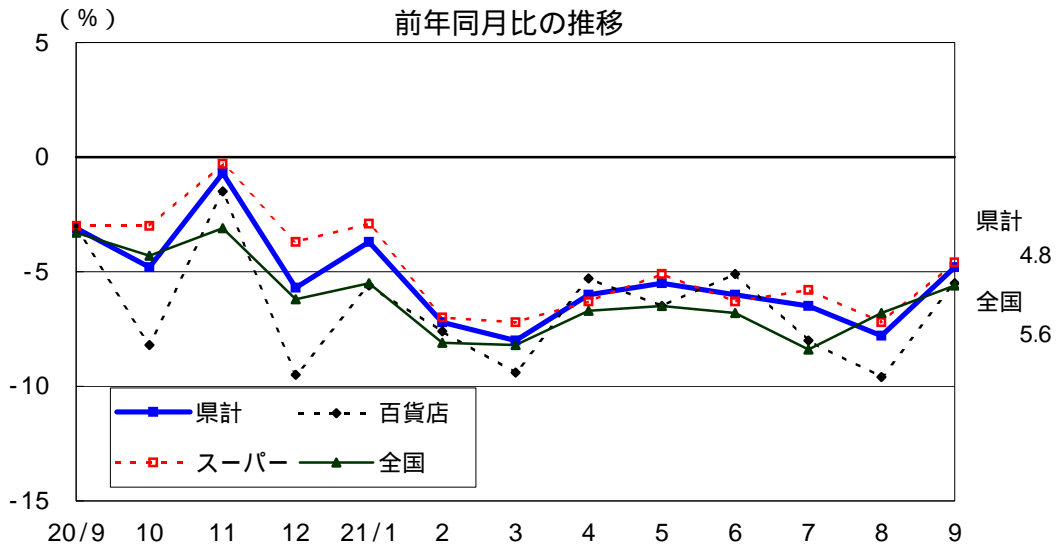
3 主要経済指標の動向

(1) 個人消費

大型小売店販売額

9月の大型小売店販売額は前年同月比4.8%減となり、14か月連続で前年水準を下回った。

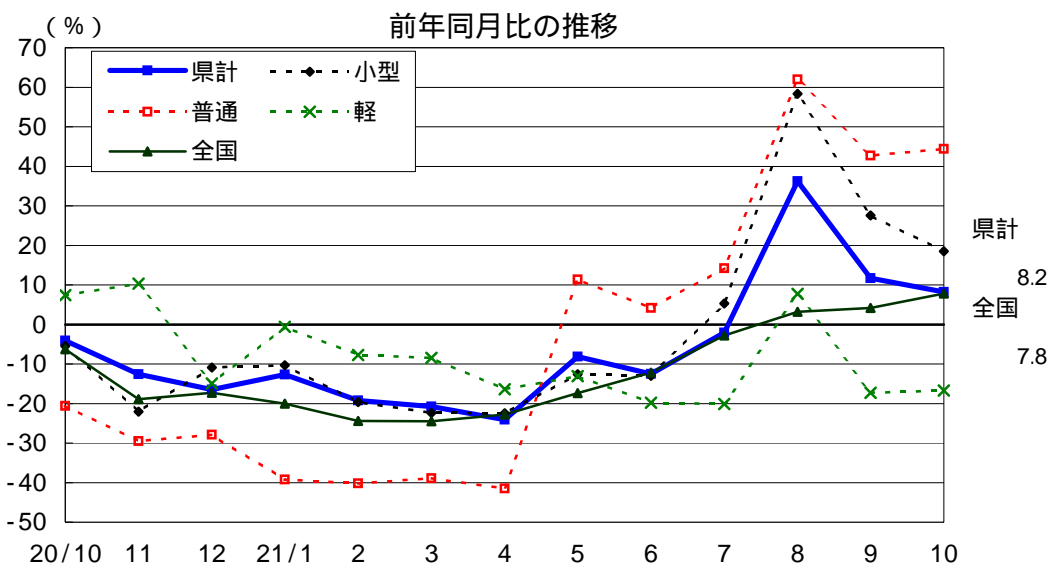
- ・業態別では、百貨店が5.5%減、スーパーが4.6%減となった。
- ・商品別では、衣料品、身の回り品等の全ての商品が、それぞれ前年水準を下回った。



乗用車新車登録台数

10月の乗用車新車登録台数は、前年同月比8.2%増となり、3か月連続で前年水準を上回った。

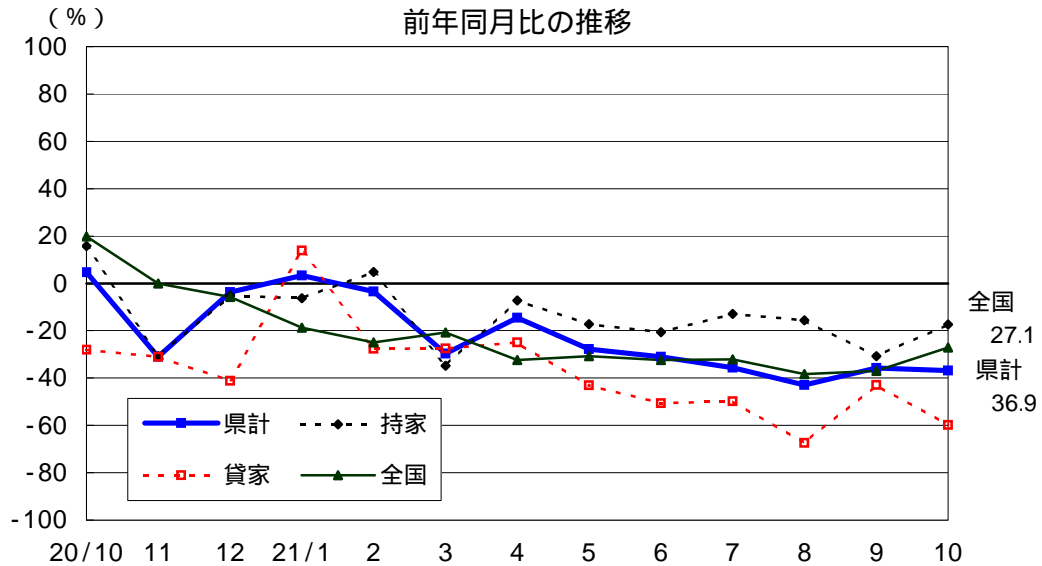
- ・車種別では、普通乗用車が6か月連続、小型四輪が4か月連続で、それぞれ前年水準を上回ったが、軽四輪が2か月連続で前年水準を下回った。



(2) 建設投資

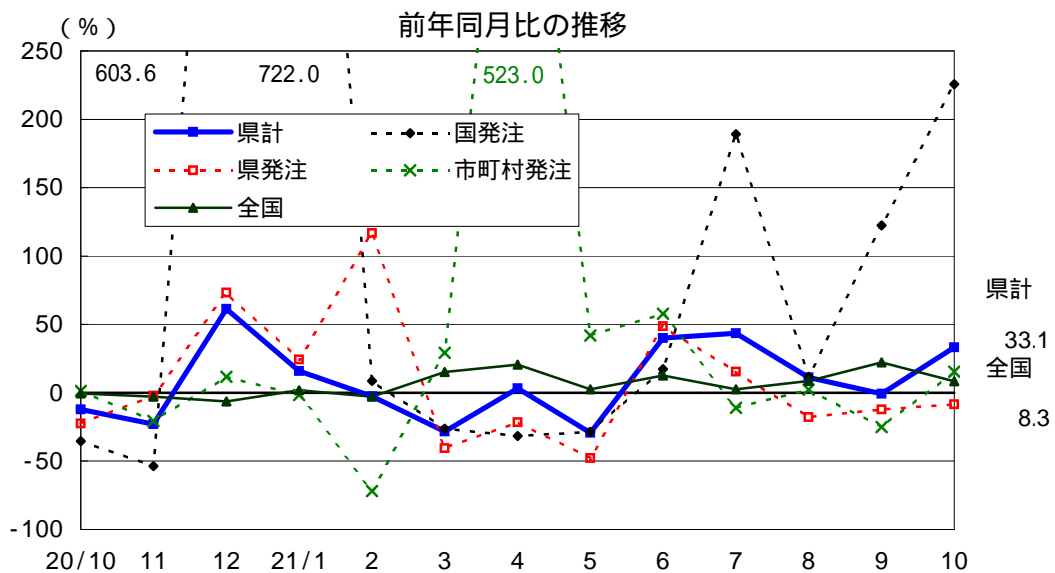
新設住宅着工戸数

10月の新設住宅着工戸数は、前年同月比36.9%減となり、9か月連続で前年水準を下回った。
 ・利用関係別では、持家、貸家が、それぞれ前年水準を下回った。



公共工事請負金額

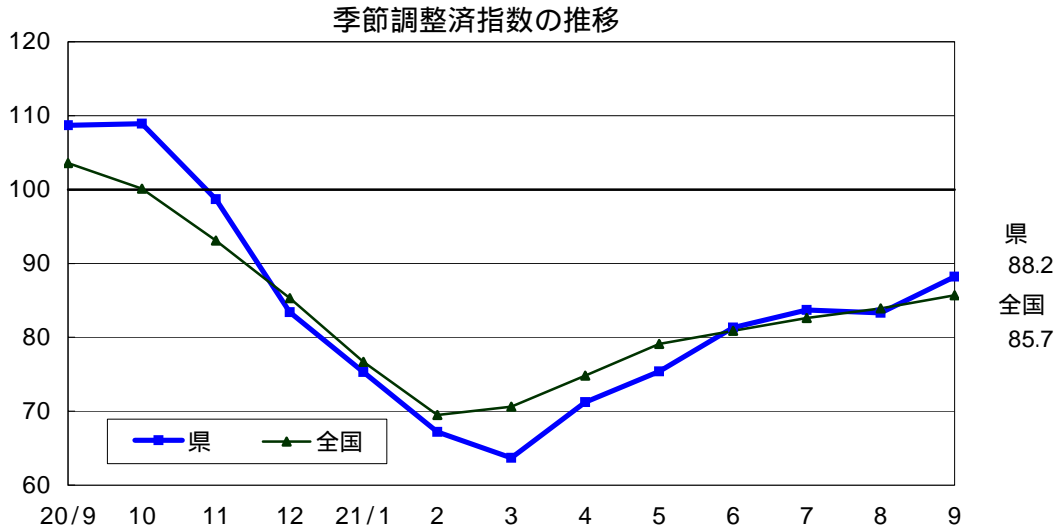
10月の公共工事請負金額は、前年同月比33.1%増となり、2か月ぶりに前年水準を上回った。



(3) 生産活動

鉱工業生産指数

9月の鉱工業生産指数（速報値）は、季節調整済指数が88.2（前月比5.9%増）となり、2か月ぶりに前月水準を上回った。なお、原指数は90.1（前年同月比19.6%減）と19か月連続で前年水準を下回った。



(4) 雇用情勢

有効求人倍率

10月の有効求人倍率（季節調整値）は、前月より0.02ポイント上昇し、0.35倍となった。なお、原数値の前年同月比は、0.17ポイント下降し、0.39倍となった。

